Hikari
BL
1400
.H54
no.32-

光

第三十二輯

大正十三年六月

●日米問題と吾人の態度……中桐確太郎
●入牢の心を……西田天香
●一燈園管見……山中峰太郎
●鬼子生誕……水上鐵治郎

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願 不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

●個人に於ける「宣光社」的働き……谷口雅春
●一燈園生活問答……まつした
●歐米資本主義發達史要……久保田明光
●クリスト教社會主義史……松下吉衛

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

東京一燈園より

敬偉無

●LL勞働協會の諸兄（龜井、竹井、石原、工藤、藤井）は、目下、『子供の家』（本所區小泉町二四）の基礎工事に日々十時間の勞働に從事いたし居り候。モッコかつぎ、やり方、杭うち、石工、何でも持つてこいの萬能ぶりには、同人は申すもおろか、第一、一所に働いてゐる大工さん達が、たまげてゐる次第にて、とりわけ、幼兒昇降の石段の出來ばえなど、いとあざやかなるものにて候。日給は、それで一圓五十錢乃至二圓、こゝらが當今の相場の由に候。雨降り等に妨げられ、毎日働くといふわけにいかざれば、なかなか生活といふものは、今更ならねど、樂でないと、一協會員は述懷され候。それでも諸兄の勉強は、五月末の決算に、よく、二十餘圓の蓄へを示すを得候は、同慶の至りに御座候。

●東京府社會事業協會に奉仕の諸兄姉（佐藤、富田、渡邊、東海林、土屋夫妻、松下）も不相變事務繁忙にて、『社會事業旬報』發行の前夜など、徹夜謄寫版工たること稀ならず候。我國にては、社會事業の聯絡統制といふこと、全く未開拓の分野に候へば、一鍬おろすにも、なみならぬ勞苦に候も、それだけに、また、やりばえも有之候次第にて、此頃、既知未知の諸賢より過分の感謝狀に接せぬ日とては無之きほどにて候。從來、社會局構内のテントを事務所として雨に堪へ風を凌ぎ來り候も、兩三日の内には、東京府正門内右側のバラックに移轉の筈に候。

●谷田部兄、夏井兄、小柳兄の集團バラック事務所に於ける、松井兄の淺草寺簡易宿泊所に於ける、篠崎兄の太平小學校に於ける、淺海兄の淺海工務所に於ける、其他、石川、藤岡、中澤、立山、木田、中田諸姉の家事手傳に於ける托鉢奉仕は、經驗に敎へられ、相互の理解の進むにつれ、此頃ではほんとにしつくりとして來たやうに觀ぜられ候。尚、中西、黑田兩兄は信州に、磯部姉は福島に行脚中。

●たゞ野木兄久しく病まれ、中山兄、河村兄の健康また兎角勝れられざるは、同人一同深く憂とする所。時、梅雨期に際し、加養專念ならんこと、希望に堪へず候。

●六月一日には同人一同井ノ頭公園に遊び候。藤井惣兄御一家も行を共にせられ候。綠樹風薫る下、兄が『改造諸團體の概況』を聽くを得たるは、同人の限りなき喜びにて候。尚特筆せざるを得ざるは、誠光團（野方町上沼袋一一二一なる金光教會設立集團バラック）の日枝兄はじめ鈴木氏角田氏等の心こめたる『筍めし』の御供養ありし一事に御座候、『このやうな口によきもの近年覺え申さず』など口ずさみ、十椀以上を傾け候は、どこかの誰やらにて候。新宿にて一同入浴。手拭不持參者、龜井、小柳、松下。ために豆しぼりのを三本購ふ、一本金十三錢也。

●『子供の家』は六月中に、『働く者の家』は七月中に各々出來上る豫定に候。前のは本所基督教產業青年會の田中兄に、後のは淺海工務所の淺海兄に工事をお願ひ申候。兩兄共商賣ぬきでやつて下さる筈。感謝この事に存候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

BL
1400
.H54
no.32-60

日米問題と吾人の態度

中桐確太郎

一

日本移民排斥を目的させる所謂一九二四移民法案は五月五日、米國兩議員に於て、殆んど壓倒的多數を以て通過し、遂に同國大統領クーリッヂ氏の署名も濟んで、本年七月一日から實施せらるゝことになつたさうです。抑も米國が此の如き態度に出てねばならぬに至つた緣因は何でありませうか。いろ〳〵の方によりて、いろ〳〵に說かれてをるのでありましたが、最も根本的なる原因は要するに國家本位の時代精神が有形無形に、兩方より步み寄り、遂に大衝突をなすに至つた所にあると解すべきやうに思はれます。さて今後如何に成り行くでありませうか。更に一層『重大なる結果』が當來するであらうことを豫想して、これに對する準備をさ〳〵怠りなき方もあるので、外交當局の責任は更に緊切を加へ、それを後援する國民の愛國的精神も一層激發昂揚し來るであらうと存ぜられます。此際われ等は如何になすべきでありませうか。國民として各その位に立ち、その持場々々に據りて、その使命をはたさねばならぬのでありますが、さて殊に一燈園生活同人としては、如何なる覺悟を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なすべきでありませうか。お互に所思を述べ、考へを練り合うておく必要があると思ひます。

二

惟ふにかゝる時に際しては何人と雖、國家本位的時代精神の潜在活動に刺激せられて、所謂愛國的精神の激昂を感ぜぬものはありますまい。平素冷靜を以て自から任じてをつた人でも、往々にして熱狂過激の志士と變はるためしも少くないことでありますから、此際殊に警戒を要することは、その愛國的精神が、當座の憤激に驅られ、偏執矯激なる形を取りて活躍し、騎虎の勢、自から制することと能はず、遂には自大排他的なる軍國主義となつて跳梁跋扈するに至るであらうことでありま す。蓋し偏執矯激なる自大排他の行動は、外交の機宜に種々の支障を來して、徒らに事を害するのみでなく、遂には愛國的精神そのものをも萎微、沮喪、衰頽、枯死せしめ、國家存立の基礎を破壞するに至るであらうからであります。

私の信ずる所によりますれば、人間は其の至心の切望——即ち愛の基礎の上に自由を享有せんとするの要求——を滿足せしむべく、精神生活の程度に應じて、種々の社會生活を營んでをるのであります。家族、國家、若しくは其他の集團生活は即ち是でありますが、現今の如き精神生活の程度に於いて、比較的確實に此の人間至心の要求を滿足せしめくれるのは即ち國家であります。是れ即ち國家本位の時代といはるゝ所以でありませう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

そして此の國家生活の基礎となつてをる所の愛は、現今の精神生活程度においては、人々の我執によりて局限せられたるものではありますが、その本質は、一切他と自分とは本來一體であるといふ潜在的靈覺を根據としてをりますので、此の靈覺に連り、これに培はれて、始めて眞の生命に活くることを得るのであると思ひます。然るにさなきだに我執によりて局限せられてをります所の國對的愛が、更に國家的我執によりて、ます〳〵偏狭化せられるならば、その根本の生命は萎微沮喪、遂に枯死するに至るは當然の事であります。恰かも挿花に用ゐらるゝ樹木の如く、生命力の惰性により、または少分の液體に養はれ、一時の盛を維持することを得るとしても、到底永く續くものではありません。偏狭我執の愛國的精神によりてのみ維持せられたる國家が、遂に其の活力元氣を失ひて、衰亡せるに至れるは、世界の歴史に、その例少なからぬ所であります。

三

要するに眞正の愛國的精神は、萬有一體感より出づるまことの愛、少くも人類愛に基礎を置くことによりて、健全なる活動をなし得ることゝ思ひます。君國の爲には何事を犧牲にしても悔いゐことなき剛けきもののゝふをして、眞の武士たらしむるものは、所謂る武士の情けでありますが、この情けこそ、博き人類愛に根ざし定めて咲きいでたるゆかしき花に外ならぬのであります。申すも畏きことでありますが、明治大皇ほど、まことの愛國的精神に富ませられた方は甚だ稀でありませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

そしてその勝れたる御精神こそ、

四方の海みなはらからと思ふ世に
　　など波風のたちさわぐらむ

の御製にあらはれてをる如き宏大なる人類愛の光現に外ならぬことと思ひます。曾て德富蘆花さんが、トルストイ翁をあのヤスナヤポリヤナに訪はれた時、翁は同じく明治天皇の

國のためあだなす敵はくだくとも
　　いつくしむべきことなわすれそ

といふ御製を批評して『此の撞着を如何に調和するや』と申されたとかいふことですが、私を以て見ますれば、人生の複雜なる實際に處しては、戰もまた辭すべからざるの時あり。而して戰を宣し得る聖なる權は、眞の人類愛に燃えつゝある人にのみ許さるべきであると思ひます。

四

國家本位の時代精神が相衝突する所、そこに戰爭の起ることなきを保し難いのであります。また現今の如き精神生活の程度においては、その愛國的精神も自から偏執矯激に傾き、神聖なるべき武も亦しば〳〵瀆さるゝことを免ぬでありませう。乃ち博き人類愛の精神を以て、之を浄め、之を高め、本眞の生命に活き得るやうにすることが肝要であると思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

しかしながら、愛國的精神活動の如何なる形式に於てても、例せば戰線に立ちて互に砲火を交へつゝあるの時に於てても、つねに人類愛を維持し得るが如きことは、優れたる聖雄をまちて始めて能くし得ることであつて、尋常人に取りては決して容易なことではありません。こゝに於て此の二つの役目は業を分つて、はたされつゝあるのであります。

同國人が一方に於て、奮戰健闘、突貫戮殺を敢行しつゝある間に、他方に於ては、赤十字隊を組織し、危險を冒して、深く戰地に入り、敵と味方とを論せず、倒れたるを扶け、傷つけるを救ひ、血を洗ひ、創をつゝみ、いたはり慰め、以て少しにても其の苦痛を輕からしめんことをつとめつゝあるが如き、いづれも人類愛の實行を以て、やゝもすれば偏執に墮し易き愛國的精神を淨化し、高化し、若しくは賠償し、補完せんとする試みに外ならぬのであります。

古來、武將や、覇者にして、愛腸慈眼の宗教家を、その帷幕の中に屈請して之に師事するもの尠からぬのでありますが、これまた同樣なる目的に出づるのでありませう。意識的にはさうでないといふならば、無意識的に行はるゝ自然の妙用ともいふべきでありませう。籠の鳥の蒼穹にあこがるゝ如く我執に囚はれたる者は、限りなきの愛に、生命の水を汲まざるを得ません。無限の慈悲を生命とする宗教家の、此世に於ける天職の一つは、思ふに此の如き使命を完うせんとすることでありませう。

さて然らば、一燈園生活同人は此際如何なる態度に出づべきでありませうか。その地下水行の祈願に立ちて申しますれば、此世に於ける人類愛、その力なほ微弱に、愛國的精神の稍もすれば惡化せんとするの責は、畢竟自分等の負はねばならぬことを思ひて之を懺悔し、その罪を謝せんが爲に此の世の務めに奉仕しつゝ、何よりも先づ、自分の我執の根本を拔き去ることによりて、此の世に愛と自由との天國淨土を開顯するの一資たらんことを期するにあるべきでありませう。即ち機に應じ縁に隨ひ、如何なる識業に從事し、如何なる事務に當りつゝあるも、つねに懺悔奉仕によれる托鉢の行願を徹底的に成就せんことを祈るべきでありませう。

さてまた組織體としては、從來の一燈園制を整頓し、肅正し、擴張すると同時に、未だ著手せられをらぬ宣光社經營の實施につとめねばならぬと思ひます。而して此際殊に心をひきしめ、國内の同志と結束し、また米國及び其他各國の共鳴者と相呼應して、此の祈願を普及實施せしめんことに隨分力を盡すべきでありませう。

刻下の問題に對して取るべきの道は、社會の各種官能に順應して、それ〳〵相異なるべきであると思ひますが、一燈園生活の存在理由に即して申しますれば、同人として分擔すべき仕事は、如何にも微溫、消極、退嬰的にして、また無爲無策なりとのそしりはありましても、要するに略ぼ上述のやうなものかと存ぜられます。如何なものでせう。どうぞ十分の御批正を願ひ上げます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

入牢の心を（二）

西田天香

けれども、自分は氣がすまぬ。今の自分は自分を極度にどうとかしたい、名譽も法律上の公權も何もかも己れにほしくもないものを持つてゐるのが落付かない。たとへ罪にならないでも未決に入つてゞも落付きたい。曾て二十二年前此生涯にたつときに、大阪の控訴院の建物のうちの地方裁判所の檢事局へ委托金費消の自首をした。

『被害者がないてはないか』とハネ返された。

『私を信じて貸した人の金をスッカリ返さずに、あの財物を渡して新生涯に立つのです。信じられて借りた金が滿足に返せぬならば委托金費消です。被害者よりは私がよく承知して居ます』

『お前の返す財物で支拂が出來るかも知れぬてないか』

『イーエ、そんな事をおもふのは私の得手勝手です。』

『お前はそう思ふても罪にならぬ、お前は監獄を見たいとおもふてソンナ事を申出たのか』

などゝいはれて此時も罪にならなんだが、その時と今度は少しは樣子がちがふ、若し罪とならずばこ

れをも附加してと、戸籍上の屆けについて僞りを屆けておいた事など（是は玆には略します、私は去年死なれたある××の方からたのまれて、表てむきに出來ぬ子供を私の子として屆けた外に、同じやうな他の賴まれ事で一人の庶子を持つてゐますが、私の子でない二人とも僞りの屆けをしてゐます、今迄他にいふたことはない、二人とも今は死なれたら、冥土では私が今是をいふても、不快に思はぬと信じます）書き添へて、三月一日に、病院を出て京都の裁判所へ自首しにいつたのです。時間がおくれたので、同じ辯護士さんの處へ書類を持たせてやり、四五日たつてから宅に往つて面會し、是ならば自首して罪になるでしよう、どうか罪になる樣に辯護をして下さいと賴み込みました。その人は色々考へて吳れましたが、

『戸籍の事は年限があまりにたつたら矢張駄目である。又かゝる良心の發動よりして自から罪を悔い改めるといふ決心は、もはや入牢さす必要がなくなるので、たとへ罪になることでも罪にはおさしはすまい。たとへ罪にする事が具はつても、目的の入牢は到底出來ぬ。』

『それでも兎に角自首だけしたいと思ひます』と突込んだら

『自分が內容をきいた上で、それがよからうと申すのはあまりに事を好むやうになりますまいか、あなたにしても、ハツキリ目的は達せられぬとしられてからの兎に角の自首は、何となく落付かぬやうに思はれます。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ときけば成程そうでもあり、今一應と歸つた樣な事もある。

　はなしはあと先きになりましたが、私は形式的の此自首や、又よしやその目的が達せられて入牢の目的をとげるにしても、その願ひをしてゐる間に、自分から入牢の事實を擧げておきたかつた。法律上の制裁を受けられたらよし、よしんば受けられなくても自分で先づ入牢の事實を擧げておきたいと、色々自牢の方法を考へましたが、それが容易に見付からぬ。看守に知人がある、一通り未決既決兩囚の監房に於ての取扱へをも聞いた。それを何處にて實行しやう。妙なものです、引張られてゆくときはさぞいやな氣持もするであらうに、自分からゆきたいと思ふと中々にゆけぬ、また適當な自牢も見付からぬ。一燈園の小屋か、友人の山の一軒家か、何れも條件が具はらぬ。それに困つたことには、牢番がいる牢番をたのめばその人にたとへ米代でも手當がいる。赤裸々で入牢する身に牢の建築費や牢番の食事が要つては徹底せぬ。など丶色々考へまはつて、とうと一月十九日、大學病院に島薗博士に內輪話しを打あけて、入牢同樣の食事で私を監禁して下さいとたのみ込み、取あへず許されて二日間入院し、東京へ出張したり、外の用事に已むなく呼び出されて中斷し、正式には丁度一ヶ月經つた二月の十九日に、愈々病舍におさまり込んだのであります。

　病院は食事は嚴密に入牢以上の貧弱なものであり得ます、未決は差入物が出來て問題にならぬ、既決の四人の樣な食事よりは、營食分は少いでしよふ、排泄物は一切檢査を要する、身體の束縛と

いふ點からいふたらば、或意味に於ては、四人以上に窮屈かも知れませぬ。併し獨房よりは部屋は立派である、私自身及自分の家庭の用事などは絶體にせない決心をしたが、他の求道者の用事は拒む事をせなかつた矢張澤山來客があつた、無聊と云ふ事は絶體にない。此點は到度牢舍の様でない。表に『自省と謹愼の必要あつて、病院の試驗用に此からつかつてもらふてゐます、私は入牢同様の心でありたいと思ひます、御用の方はそのおつもりでお入り下さい』と張り出しはしましたが、それは大した功能はなかつた。それで色々又考へ込みました、此部屋は研究と應接の爲めにこそ必要なので私自身の爲めてない。それを明かにしたいものであると。三四日考へ込み、さがしあてた、布團部屋があつた。玆に火の氣もないから丁度よい、板間に薄べり一枚もつてゆき、高い處に明り窓があるだけである。こゝで何かを書く事にして、あとは作業時間を病院掃除托鉢にすればよいと。或る日よりひそかに往き、その夜そこに寢させてもらふた。身はいたかつたが心はやれ〳〵これでと難有かつた事でした。私のからだはそんな事位で困るからだではなかつたのが矢張寒くつて、板の間で冷えたので、まんじり寢られず、朝の三時には起きてしもふて、病院中の下部の掃除をしはじめた。朝になつて何くはぬかほして診察を受けましたが、あとは少々昨夜のとりかへしのためか、うつら〳〵と寢ましたが、どうやら風邪の種であつたやうてす。すぐはね起きて、又托鉢し翌日は朝から兵庫と須磨へ講演に出かけましたが、段々熱が高くなり、外套なりてお話しをさせてもらひ、

十時頃に神戸を發して十二時すぎ京都へかへりましたが、私には珍しい高熱で四十度近くあつたやうです。電車はなし、始めてタキシを自前で雇ふて、病舍へコロガリ込みました。すぐお手當を受けましたが、翌日其發熱最中に新聞社から訪ねられて、とうとうバッとなつたのです。自省と謹愼の張出しで、園の戀愛問題についての謹愼と早合點されたのでしやう、新聞はすぐに艶つぽく書かれますが、無理もない事です。何にもせよ、入牢の氣持は色々の事でまだ〳〵私は滿足されませぬ、何れ臺灣行を終つてから今少し徹底せなければなりませぬが、ざつとこんなことが今度入院の內容の一端であります。多くの方に色々心配をかけまして甚だ相すまぬわけでありますが、お蔭で熱は二日で下り、二三日靜かにしてゐましたが、あとは平常に復しました。

自首したい方の問題は、その後更に一人の光友で能く私の內容を知り同情してもらふ或る方と、前の辯護士の方とに話しを預けまして、私は自身に謹愼の實を何等かの方法にて擧げる事にしました。ヴイターミンの調べの方は一段落をつげました。

勝手な態度の樣でありますが、お許し下さい。私としては是は當然往かねばならぬ路であります。私がわるいといふことを、今少しどうにかせねば私は落付ますまい。落付いたあとで、皆樣に色々の方法であやまりにゆき、またおわびの實をあげたいと思ひます。

（此稿まだ完了しませぬが一度これで筆を措きます。）

諸家の一燈園觀

一燈園管見

山中峯太郎

松下さま。その後は、うち絶えて、ごぶさたを致してをります。天香さまにも、八田さまにも、久しく失禮にすぎてをります。時々に、お便りをいたしたく、心づきながらも、別に改めて何を申述ぶべき事もございませず、ついそのまゝに、時のすぎゆくうちを、今日、一燈園觀ともいふべきものを、何か書くやうにとの、渡邊さまからの仰せでございました。書く時間の餘裕もありませず、それに私としましては、この問題は、かなり書きにくい、言はゞ親類の者を批判するやうな、心苦しさを覺えます。で、日頃のごぶさたのお詫びに代へさせて頂くつもりになり、言はゞ私自身の述懷を、少し書かして下さいませ。勝手なことで氣がひけます。お許しを願ひます、

死んで生きる。そこには、生きることをも期待せざる死に徹して、初めて如法に生きるのでありませう。こゝに「生」は始終を一貫して意識に上るべきものではない。一分だけ死ねば一分だけ生

き、三分だけ死ねば三分だけ生きる、といふ如き中途に浮き沈む、微温的な態度は、死んで生きる道を眞實に歩むものではないのでありませう。一心に、あくまでも死ぬのである。その爲の第一歩として、捨てる。すべてを捨てゝ、捨てゝ、捨てきる、この様式に於て、死への僅かに第一歩のみが、漸く踏み出され得るのでありませう。

捨てる。いはゆる捨身生活、また出家道とも言はれます、この身を捨て家を出る求道の第一歩、それは、私にも、實は踏み出した經驗があります。ゆらゆる一切を捨てきるべく、私は然し十字街頭へは出ずに、山奥へ入りました。それは生活様式を考へる外の問題に動かされたのではなく、自身の内の言はゆる煩悩の處直に苦しんだ結果でした。いかに生くべきかよりも、いかにして煩悩を解脱すべきかゞ、私には痛切なことでした。外よりも内が、第一義的に氣づかはれてゐました。今もなほ、この性格的傾向をもち、この立場から、一燈園の御同人を眺めてゐます。さうして言ふまでもなく、理論よりも現實を見て、そこに學ぶところ多きを、ひそかに感謝してをります。

一燈園の御同人の生活を見て、更に、親しく御同人と接觸させて頂き、學ぶところ多き感謝の内容は、私自身の捨て得ざりし既往の苦悶を、今なほ、御同人の上より省みさせられることであります。生活の外的様式に於て捨てきることは、私にも一應は易いことでありました。然し、内の自身を捨てきることは、捨てようとするだけそれだけ我執を深くするのに、全く行きづまつてしまつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

のでした。自身の本質が、内的捨身に徹するには、不相應である自覺、この自覺を得ますまでに、わたくし相當の波瀾を經ました。なほ今も、この自覺の正しさを疑ひ得ずにをります。捨て得ぬ自分、この自分が外樣の捨身生活に甘んじてゐることは、妥協の外道に墮ちてゐるものと信じてゐます。それは私にとりまして、似非の捨身であると思はれ、同時に自己を欺瞞する、少くとも主觀的僞善の大いなものであるとも思はれました。到底、一日も堪へられないことでした。捨て得ぬ自分なればこそ、なほ深く之を懺悔する時、それだけ更に捨身へ進む。これは私に一應の戲論であり、思索の餘裕と調和を求める空想に終りました。この種の進みかたは、內的現實に於て、自身が進むだけ退き墮落してゐるのでした。現實といふものは、私に於て內にも外にも、然く單純に淸らかなものでは、今もないのであります。穢れはてゝゐます。然し、捨身生活は本來に於て聖道へ行く純淨の一路でなければならぬ。これは最も端的な當爲の事實であり、捨身者は、外に於て無所有たると共に、殊に、自身の中心に於て、內にも更に聖潔に自己を捨てるべきであります。また實に、こゝにこそ「死」の體得が初めて第一歩を蹈み得られるのでありませう。內なる自我、これを捨てずして「死」は有り得ない。この事は無論以上の明白な事であります。即ち、捨身者は死なねばならぬ。內なる自我を十字架に釘けなければならぬ。我執を殺さなければならぬのが、捨身道の第一義でありませう。この第一義の願ひなくして、たゞに無所有の生活樣式によるもの、をそれだけで捨

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

身者であるとするならば、それは私の思ふ「捨身」とは餘りに隔てがあり、こゝに同名の兩者に本質の差異を感じることであります。

松下樣。一燈園の生活は、本質に於て「捨てる。」とは、內なる自我を捨身することにありませう。さらば、捨て得ぬ私、また捨てるに及ばざる私とは、路を明かに異にするものであります。

なほ一つの不可解を、一燈園生活に對して、ひそかに感じてをります。我執を捨てよ、そこに、戀愛、結婚は、當爲に捨らるべきものと、私は今も信じてゐます。現實の上に、戀愛、また結婚は、その本來に於て、我執なしには生まれ得ないものである以上、捨身者に戀愛があり、捨身者が結婚することは、根柢からの矛盾でありませう。連帶のまゝの捨身も、斷じて成立ち得ないことであります。天香さまの言はれます「家庭ぐるみの救ひ」は、私に於て言ふに易く現實に不可能の說話であると思はれます。家庭の營みには必然に捨て得ぬ我執を伴なふからであります。

こゝに、私は「宣光社」＝財物を預かる生活に於ても、すでに捨身道の墮落を聯想してをります。一錢の財にも、つまづきを思ひます。無所有より預かりものへ、この過程は、すでに千歩の妥協を意味します、一燈園に宣光社の交渉あることを、私は理想の上に憾む一人であります。同時に、一燈園に戀愛が結婚があることを不可解に思ふものであります。

宗教の上よりせず、經濟の上より見ます時に、捨身生活の樣式は、言ふまでもなく深き意味をも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ちます。近ごろは殊に、「賣買」そのことに對する疑ひを、深くしてをりますので、經濟制度、社會組織の上から、捨身生活の意義と價値とに、餘ほど細かく關心するやうになりました。生きるためには、何故に買はなければならないか。また何故に賣らなければならないか。この「何故に」を解き改めることに、一燈園の使命は大きく、その實證は世にも尊ぶべく、園の根本祈願は、この一點の解決にあるべしと、ひそかに私は思つてをります。こゝに全心の敬意をさゝげてをります。この點に於て縷述すべき多少のものもございますが、力の弱い私は敢て筆を止めます。

わたくしの一人の所感を、他人行儀でなく申上げますと、一燈園生活を、宗教の上よりは明白に敬遠します。經濟の上より更に深き敬意と期待をさゝげてをります。殊に、震災に對しての御精進に、衷心より合掌いたしてをります。

餘りに早々に書きまして、意をつくしませぬ。亂雑と、非禮を、ひとへにお許し下さいませ。終りに、宗教と經濟の握手と歸一は、戰後に於る現世紀の謎であります。切に時流に囚はれざる御精進を希念する次第であります。（六月四日夜）

〇本輯表紙題字解説　朝鮮平安南道龍岡郡秥蟬碑中より頂けり。關野工學博士の考證によれば、此碑は今を去る一千七百三十五年前樂浪時代の建立にして、日本領域内最古のものなりといふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

鬼子生誕

水上鐵治郎

月の夜潮が水門にさして、
音もなく扉を開くやうに、
鬼の胎兒をみごもつた母にも、
臨月の陣痛は迫つて來た。
生るべき鬼子は、叛逆の
爪で母胎をかきむしる。
汗すゑた胸は淫蕩に肥厚して、
多産の乳房は弛緩して居る。
死の產褥に呻く母の
未練らしい息づかひ…………

叛逆の兒よ、手をゆるむな
黑血に塗れた死屍を踏んで、
新しい生誕を哄笑せよ。

食人種族は、仇敵の
肉を屠つて喰ふのだ。
自覺ある叡智に眼覺めるまでは、
凡て太古の未開である。
慈悲と忍辱のかなしさも、
初生兒の、
淨裸々には、用なき說法だ。
母は、汝を生む、
唯強く生きよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

個人に於ける宣光社的はたらき

谷口雅春

六

斯くの如き狀態に於て、自分はあらゆる方面に行き詰つてゐたのである。ところが自分は近頃ふとした機會にひとりの「道人」に會つたのである。彼が自分の人生を觀る目をひらいて吳れた。自分は狹い人生から廣々した人生に出たやうな氣がした。自分は自分の「愛を實に移す力」として、個人にも亦一燈園の托鉢者の如き「聖貧」の生活と共に、宣光社の如き、一見財を有てるが「やうな」生活を兼ねそなへる必要に氣づいたのである。此の「道人」がそれとなく云つた言葉が暗示となつて自分を啓發して吳れたのである。彼はかう云つた。「今の所謂善人と云ふものは皆な貧乏になる稽古ばかりしてゐて、自分が貧乏してゐるから人をたすける力もなし、自分も苦しいし、人もくるしい、これを善中の惡と云ひます。」此の言葉が既述したやうな德道的板爽みに苦しんでゐる自分の頭にピンと應へざるを得なかつたのである。彼の言つた言葉は自分の一友人が評したやうにそれ自身には却つて平淺な深味のないものかも知れない、しかしそれは自分の淸貧の無能力狀態に的中

してその眞中を射通したのであつた。自分は今迄出來るだけ財に遠ざからうとばかり努力してゐた。財に關係することを何となく羞かしく思ひ、當然要求するを得べき財貨をすら出來る限り要求しないやうにしてゐた。その當時自分は論文集「聖道へ」の中に、田澤鑛山問題について西田市太郎氏が宣光社の機能として抗訴しられたことを、辛き語調で『「悟り」と「王位」とを、共に得ようとする釋迦の如きである』と云つた。併し今自分はやうやく、淸貧の一道のほかに「宣光社」を必要とせらるゝに到つた西田氏の心境を體感する如き境地に達したのである。漸く淸貧に住まりし當時の自分が、それ以上の境地にすゝまれし先達者を輕々しく許したことを自分は耻ぢる。出來得る限り財貨を他から奪ひとらうと鵜の目鷹の目でゐる人ばかりのこの世界に自分のやうな態度でゐる者が貧乏しないことはあり得ない。自分は果して貧乏のどん底におちいつたし、例へば、自分の一人の子供が教養のために今ゐる環境が至極面白くないものであるに拘らずその環境を脱すること能はざるほどに經濟的に無能力になつて了つたのである。一人の子供を教養することは決して「私」の問題ではない。それは「公」の問題である。この「公」なる問題に自分が十分力をつくすことが出來ないのは經濟的に不如意なからである。此の經濟的の不如意は、自分が敢て要求しても好い筈の財を、敢て要求しないところの自分の「勇氣の無さ」から來たである。敢て要求しても好い財を、要求することは罪惡ではない。自分は今迄自分が財を要求せんとする場合に感ずる子供らしい羞耻

を、敢て「財に捉はれぬ」自分の人格の「高貴さ」から來るものだと矜りに思つてゐた。しかしその實この羞耻は自分の人格の「弱さ」から來るのであつた。今自分はそれを曉つたのである。眞に「財に捉はれぬ」人格は、財を捨離するも要求するも共に無碍自在であつて矜持をも感ぜねば、羞耻をも感ぜぬ如き人格でなければならない。自分が財を要求せんと欲して感ずる羞耻は、自分が財に捉はれてゐる證據なのである。自分はこの羞耻を克服しなければならない。羞耻は「高貴」のしるしではなく「弱さ」のしるしである。羞耻は全然麻痺した人格に於て感じられないが、麻痺せざる弱き人格の兆候でもある。强き自在無礙なる人格は羞耻を感じざるものでなければならない。自分は此の自在境を理想としなければならない。必要に從つて自在無礙に要求し、要求するに從つて一切のものが集り來り、而かも其の集りきたれるものに着せず報せざる自在境に到達しなければならない。みづから好んで狹隘なる『淸貧道』よりほかに歩むべき道なしと限るのは、自分の人格を狹め且つ小さくする道にほかならない。自分は今まで自分の人格完成の理想を『汚れざる聖境』においたが、汚れることを惧れる如きはまだ眞の大自在境ではない。これは洗禮ヨハネの境地である。ヨハネは謙りて、罪びとゝ倶に飮食するキリスト靴の紐を結ばねばならない。自分は汚れることを惧るゝ如き惧憂をさへ越超しなければならない。是れを超越することによつてのみ、眞の大自在境に達するを得るのである『先づ世を離れて法に着く、事をも離れる』に及んで眞に大自在に到達す

る。凡そ眞に、惡とは自在ならざることの異名でなければならない。（この事は自分の如く先づ世を離れて、あまりに四角四面に窮屈に「凝り」ずぎた人格が、自ら鞭打つための言葉であつて、一般世人にアッピールする言葉ではない。）例へば一燈園に於て衣服を黒き筒袖のみに限りて奉仕するのは世を離れたる相である。しかし假りに一人の園の同人が「黒い筒袖のほかには一切奉仕の服はない」と四角四面に狹くるしく自分を限るならば、それは一つの「凝り」となる。疑りは自在の凝滯であるから超越されなければならない。此處に一燈園に於ても宣光社その他の試みがあるのである。また例へば、殺生を罪惡なりと觀じて、肉食を禁斷する如きは浮世の慾望を離れたる相である、しかし惠まれたる肉食を無礙身をもつて歡んで受けることと能はざる如きは一つの凝りである。「凝り」は自在の凝滯であるから超越されなければならない。而してその惠まれたる肉を歡んで受け且つ食べ、相手の供養の心を生かすと共に自分の肉體をも養ひ生かし、供養するものと供養迄受けるものとの調和した感謝の心をもつてその供養をも生かす時、はじめてこの「凝り」は解けるのである。自分は甞て「光」誌に於て供養されたる肉類を受けざるをもつてよしとしたが、今の自分の如き境地にては受けるをもつてよしとする。凡そ眞に自在なるものはすべてを生かすのである。物慾にとらはれて自在を失つた浮世の人が、淸貧の生活に入るのは、物慾の囚縛を脱して自在とならんためである。しかも淸貧に凝りかたまりて、すべてのものを生かすことが出來なくなる時、その人

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

は清貧のために却つて自在を失つたのである。自分は再びすべてのものを生かすために要求すべき一切を何のこだはりもなく要求し得る人格の强さと、殺生してなほそれを生かし得る人格の自在さと、思ふまゝに方便智を驅使して敢て眞實にのみとらはれざる人格の無罣礙さと――此れらを獲得せんがために峻峭なる「義」のみの高地を將に降りて無礙の大平原にのぞまんとする眞面目なる轉機に際會してゐるのである。この轉機が敢て自分を邪道に導くもので無からんために「光」の讀者諸君にお祈り添へをねがふ。（大正一三、四、一七）

一燈園生活問答（四）

まつした

A。さう言はれると、私なども大分耳が痛いわけですが、生活をかへるといふことは、ほんとうに大變てしてね。家族のことを思ふと、全く手も足も出なくなります。道を行ずるには、家族を捨てねばならないかどうかについては、ずゐぶん考へさせられました。

B。それについて、今のあなたの御氣持をおきかせ下さいませんか。

A。私は、たとひどんなに足どりが遲くとも、妻子ぐるみ兩親もろとも行く方が、ほんとうのやうな氣がします。『布施太子の入山』でしたかね、Kていふ人の――あれを讀んだとき、これは足が地に附いてないなと感じましたよ。

B。道を行ずるのに、すべての場合、家族を捨てねばならないとは限られまいと思ひますが、實際問題としますと、これは、また、單

純にどちらともきめられないやうですね。生活環境が元のまゝでは、弱い人間のことですから、折角發心しても、どうともならない場合が多うございますので、『出家』とか、『棄恩入無爲』とかいふ言葉にも、成程となづかれるふしもありますが、さうかといつて、みす〱明日から路頭に迷ふことがわかつてゐる家族を捨てゝ、自分ひとり修行につくといふ行き方も、善いことをするにさへ我執のとりきれない私共として、常に選ばれる苦の道だとはきめられますまい。要は、身邊の事情を具さに考察して、いのりにいのつた上で、もうこの外に行き道がないといふところまで煎じ詰めて、斷行するより仕方がないのではありますまいか。それが出家道にならうと、在家道の形をとらうと、それは、その時その人の特殊な事情が自づと決定する事柄であつて、豫め出家道が勝れてゐるの、在家道でなくてはならないのと論議すべき筋合ではございませんでせう。

現在、一燈園にも、棄恩入無爲の形で修行してゐられる方が少くございませんですが、生活の外觀だけが捨身的になつてゐるに止まつて、我執の根が少しも掘り取られずにあつたら、大變な罪つくりですから、同人同士、この點は特に戒め合ふやうにしてゐます。

A。始終、緊張し切つてゐるといふことは、吾々風情には殆んど不可能ですから、棄恩入無爲が問題なんですね。

B。全くです。道の名で、實は醜い私心をさしはさんだ眞似をし合つてゐることに氣づかされるやうな場合が、まゝありますもの。『日々是好日』といふ言葉もきいてゐますが、私など今日こそ些の曇りなく過ごされたといふ日は殆んどありません、おはづかしい話ですけれど。つまり捨身が出來てないのだと思ひます。此度、震災救護にうちこんでかゝりましたのも、自分向きには、猛火の洗禮によつてかたくなゝ我執の根を燒き淨めたい願からでした。（つゞく）

歐米資本主義發達史要（一）

久保田明光

序

如何にして歐米の現在の資本主義的社會を理解するか、といふ問の前に如何にして歐米の現在の資本主義的社會が構成され來つたかといふ問を持ち出す事は當然のゆき方であるにも拘らず、ともすると人々は之を現在のまゝて理解しつくさうとする。ここに理解の不完全と、從つて固定した見方が生れる。この事は我邦にも同じ樣に言ひ得られる。私は以下ごく平易に、歐米の現在の社會、即ち所謂資本主義的社會と、その上に立つてゐる所謂資本主義とがどうして、そしてどんな風に發達して來たかを書きつゞけるであらう。ひたすら一般の人達の讀み物として。（この稿は主として Manrice H. Lobb 氏に負ふ事を附記しておく。）

第一講　資本主義的社會直前のイギリス

イギリスに於てはおよそ一七七〇年前迄は、生産は現在とはよほど異つたやり方で行はれた。殆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

んど現在見うる様な工場といふものもなく、只小さな仕事場があつたきりで製鐵所なども丁度今日の鍛冶屋の様なものばかりであつた。纖維工業でも、殆んど職人が自分の仕事場と紡車をめいめいに持つて、其處で彼等の「手」でこつこつ仕事が爲されてゐた。（その有様は今日アイルランドの田舍ではよく見られる）。當時の資本家といふのは專ら商人で、普通「商人製造家」などと呼ばれてゐた。彼等は以上に述べた様な仕事場の人々に、或は原料を供給したり、出來上り品をとりに行つたり、その代價を支拂つたり、其の品を市場に持つて行つて賣つたりしたのである。そして外國貿易をやつてゐた商人達は通常、大きな商人會社を組織してゐた。たとへばインドとの貿易の獨占權を持つてゐた東インド會社 East India Compauy. の如きはそのよい一例であらう。彼等は廉價に買ひ高價に賣つて利益をあげやうとしたから、他に競爭者があつては之が出來ない。其處で之等の商人會社は次の様な事は始める。第一に彼等はその殖民地、例へばインドや英領北アメリカ等に於ける自分達の市場から外人の商人を驅逐しやうと試みる。そして第二に自分達の國内の市場で、彼等が殖民地から彼等自身の手で輸入された商品と競爭してゐる外國の商品を驅逐しやうと試みる。貴族社會の主な人達はみんなこうした商人會社に關係し、從つて政治上の機關を通して、上に述べた様な事情に都合のよい様な政策を樹立した。この結果かの重商主義といふ主張が生れて來たのである。

重商主義といふのは要するに一國の富は其國が所有する金の多寡に係るといふ考へを基本としたも

ので、これによつて外國市場に於ける勝利といひ、內國市場に於ける外國品の驅逐といひ、皆夫々この主義と不即不離の關係を持つたものである事がよく理解さるゝであらう。

以上を概括すれば、第一は當時の生產が殆んど手工業であつて、勞働者は自分の道具で自分の家で仕事をしてゐたのが普通であつたといふ事、第二には當時の資本家といふのは商人で專ら商業上の賣買から利益を得つゝあつた者であつたといふ事になる。

第二講　イギリスに於ける資本主義の創生

西曆一七五〇年から一八〇〇年の間に、イギリスでは纖維工業に於て、いろいろな發明が行はれた。かくして之等の諸發明は從來の生產行程を全然一變し、迅速に且つ均一な生產物を造り出す事となり、同時にその機械を動かす動力を必要とするに至つた。之の動力は初めは水車で、やがて間もなく蒸汽力となつた。ハアグリーヴスやアークライトやクロムプトンやカートライトといふ發明者達の名前が、この纖維工業界の變革と共にいつもいつも呼びあげられる。そして又一方ワツトやボルトンもそれに動力を提供した蒸汽機關の使用を完成した人達として記憶さるゝ事となつた。

一般に之等の新らしい機械は小さな獨立の手工業者達が買へる程安いものではなかつた。從つて此の機械を買ひそれ等を備附ける事に投資して吳れる資本家が必要になつて來た。それから又機械

を動かすに動力が必要になつて來たので、それ等の機械をその動力を得るに便利な所に備へ附けなければならなかつた。即ち初め水力を要した時には水流の側を、後に蒸汽力となつては手近に石炭の供給を受け得る場所を撰ばなければならなくなつたのである。この二つの事實は資本家をして工場を建設せしめ、機械を所有し、又その機械を動かす勞働者を傭入れ、その工場てそれ等の勞働を統制する樣にしてしまつたのである。而してこの新らしい動力使用機械は從來の手工業よりその生產量に於て遙かに優れて居るので、從來の手工的生產は段々衰微し、それ等の仕事をしてゐた人達は漸次新らしい工場に吸ひ込まれて行つたのである。

この勞働者と機械とが一の工場に集中されて行つたと同時に、工場や產業が、動力（即ち水力や石炭）や原料供給に都合のよい地方に集つて來た。之を產業の地方的集中 lacalisation と云ふのである。例へば紡績工場ははじめペンナインスの傾斜地と急流のある地方に起つたが、後にそれはランカッシャーの原に下りて行つた。即ちその地方は紡績には都合のよい濕氣があり、石炭は手近にあり、その上附近にはアメリカの原綿を輸入するに適した港があるといふ大變都合のよい地方なのである。そこでマンチエスターは附近にリヴアープウル港といふ手をもつて綿の主たる市場となつたのである。同樣に羊毛工業も初めは殆んどイギリス全國にわたつて多くの村落に散在して手工業的形態の下に行はれたものであつたが、漸次にヨークシャーの西ライディングに集中し、ブラッド

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

フォードをその中心地とするに至つた。この産業の地方的集中は同時に專門化 specialization といふことを招くに至つた。この專門化といふのは特殊の仕事に特殊の勞働者を結びつけ、特殊の生產行程に特殊の工場を固定させてしまふことである。之は普通に分勞とか分業と呼ばれてゐる。更にその結果として、之等の纖維工業に要する物を造る第二次的の特殊工場工業の發達が促された。例へば製綿機械の製造工業の如きが之である。之の地方集中や專門化は必然的な結果として生產能率を高め經濟的餘剩を生み、更にその餘剩をよく利用する事を得しめたのである。

この資本主義的社會の初期に於て、纖維工業が主要工業であつた時代には未だ近代的の大規模な工業は他に殆んどなかつた。從つて未だ小資本で事業を始めて成功し得る可能性があつた。そして近代の樣に大會社のみが產業を統制してゐたのではなくて、よく一人の人の工業が、或は又家族協同の工業が行はれ得たのである。之等初期の資本家は一般に非常に劇務を爲し且つ吝嗇と迄思はれる程の節儉をしたのである。

この纖維工業組織の革命は、又一面に於いて石炭と鐵の生產の發達を促した。更に蒸汽機關の發明もこの傾向を大いに促進した。そして熔鑛に木炭の代りに骸炭を用ふる樣になつた事と、錬鐵爐の發明とが製鐵量を非常に增した。かくて一八一五年には一年に九萬一千トンを輸出し、處々に大鐵工場を現出せしめた。

それと同時に農業方面に於ては、小農の驅逐と共同耕地の構圖(之は共同地に構圍して私有地を造つたことを云ふので一般にそのまゝ enclosure といふ言葉で知られてゐる)。によつて昔の農業組織が崩され始めた。そして平和な農業も漸次資本主義の波に洗はれて、資本家的農家が、農具の購買や土地の改善や科學的耕作法の設定の爲めに資金を投ずる樣になり、賃金を得て働く農業勞働者が著しく多く現はれて來たのである。

尙この產業革命(或は技術的革命)は徐々に而も不均齊な發展過程を示したものである。例へば紡績業が既に動力機械の使用によつて革命されてゐたに拘らず、織物業はその後暫らく手工的形態に止つてゐた事などがそれである。然し一八四〇年代には、綿織物も毛絲織物にも動力工場制が充分設けられ、只リンネンや羊毛や絹工業には部分的に行はれてゐたといふ有樣であつた。

この十八世紀後半の諸種の發明によつて、起つて來た資本主義の主要な特徵は次の三點に盡きるであらう。

(一)工場、機械及原料が資本家に所有されてゐた事。生產行程と製品販賣が資本家によつて組織されてゐた事。

(二)かくて資本家は單に商賣だけに利害關係を持つてゐた單なる商人ではなくなつて、機械を所有し、勞働力を傭入れ其處て利潤を得るといふ、換言すれば實に生產に直接利害關係を持つに至つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た製造家となつたといふ事。

(三)大機械主義が勞働者に生產要具の所有を不可能ならしめ從つて勞働者が生產要具を失ふに至つたといふ事。即ち彼は最早仕事を統制する工匠ではなくなつてしまつたといふ事。かういふ樣に考へて來ると、先づかくの如くにして生れて來た資本主義を可能ならしむるには、大體次の樣な二つの社會狀態が前提的に必要になつて來る。

第一は即ち、工場、機械、原料、勞働力の設立購入を可能にする爲めに小數者の手に充分な富の蓄積がなければならなかつたといふ事である。然るにこの必要なる富は前講に述べた樣に、イギリスの殖民地貿易に從事した商人によつて充分蓄積されてゐたのであつた。

第二には、之等資本家は其時代に生活の資糧にさへ困つてゐた人々の大衆がなければ、その資本家の利潤を擧げる爲めに甚だ低廉な賃金でその工場に來て働いて吳れる勞働者を充分得る事が出來なかつたであらうといふ事である。然るに都合のよい事にはこの無產者の大衆も、一部は土地よりの食物供給に比して遙かに自然的人口が增したといふ事により、更に又一部は農村の資本主義化により、小農地から驅逐され土地の共同使用から排除された村落の人々が增して來たといふ事によつて、速かに增して來たのであつた。この資本家的地主による共同地の構圍は、一七五〇年代から一八三〇年代にかけて行はれたのである。更にこの無產者の大衆は新機械の發明によつて工業界から驅逐された工匠達によつてその數をいよいよ增した。かくしてイギリスの資本主義の萠芽は完全に近い土壤て健やかに生ひ立つて來たのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

クリスト教社會主義史（二）

松下吉衛

運動の發端

チアーチスト運動分裂の後をうけて、（或は、より適切にチアーチスト運動を母胎として）英國の社會に非常な感激を與へた精神的社會運動が行はれた。普くクリスト教社會主義の名を以て知られてゐる此の運動は、ラツドロウ I. M. Ludlow フレデリック・モウリス F. D. Maurice. キングスレー C. Kingsley. マンスフイールド C. B. Mansfield 等を創始者としてをり、一八四八年から一八五四年に亘つて、最も熱烈な活躍をなした。

一八四八年四月十日の請願書提出は、チアーチストにとり、實に、敗殘の餘命を燃燒し盡した乾坤一擲の大飛躍であつたといへよう。それは、署名者の數、六百萬と號せられ、ケンニントン・カンモンに於いて大集會開催の後、議會へ送届けられる手筈であつた。當時西歐の天地には普く革命の氣運が漲つて居り、流言蜚語しきりに行はれ、軍隊の出動となり、特設警吏の採用となり、ロンドン市民は恟々として不安の絶頂に置かれて居た。

久しくエヴアースレーの片田舍にあつて牧師を務めて居たキングスレーは、風雲の容易ならざるを曉つて獨り坐視するに堪へず、四月十日の朝、ロンドンに出て來た。彼れは着京と共にモウリス

を訪れた。折あしく風邪に冒されて引籠り中であつたモウリスは、彼れのためにラッドロウへの紹介狀をかいた。彼れはラッドロウをかねてから共に談ずるに足るの士と想つてゐたので、二人は會談數刻にして相許す同志となつた。その月午後、共に携へてケンニントンに出掛けようとしてチャーターロー橋畔まで行つたところ、彼等は、計らずも大會の流れの群衆が雨に濡れ進まぬ足を引きずるやうにして歸つてくる意氣甚だ昂らざる光景に接した。かくて、運動の崩壞を聞知した彼等は直にモウリスの宅に取つて返し、三人鼎坐して時局について熟議するところがあつた。

彼等がいよ〳〵奮起を決したのはその夜であつた。翌日キングスレーは書いてゐる、

「モウリスの昂奮は非常である。彼れは私をラッドロウの迎へにやつた。ラッドロウはフランスからモウリスに宛てゝあの有名な手紙を書き送つた辯護士である。私達は上帝に代つて宣言すべく壁上に貼らるべき掲示の用意中である。私は、今、光榮ある仕事に參じてゐるのだ。私達がかうしてゐることは許されてゐるやうに思ふ。」

同日夕、彼れは更に書きたしてゐる、

「私は今朝四時まで起き續けてゐた、モウリスの指圖を受けながら掲示を書いてゐたのだ。その中の一篇は明朝公にされる筈であるが、他は資金の準備を待つてする順序である。……モウリスが心の底から私を信じてくれてゐることは疑ひやうがない。私達は高級の人士を讀者とすべき

『時事問題小冊子』の叢書を刊行することになつた。モウリスは決定的行動に出づる覺悟をきめた。」

かくて、「英國の勞働者」目當てに書かれた掲示は、「一勞働牧師」の署名て翌四月十一日公表になつた。それには、苟も「心ある人士は何人も」勞働者の善からぬ點を知ると同時に、又今日まて能く堪へ來つた意志の堅固を稱揚してをることや、「人民憲章は之を用ふるにその人を得れば決して惡いものではない」が、それ自身に勞働者を自由にするものてはなからうとの警告が特筆されてをり、又「たとひ地上一切の黄金主義者が擧げて諸君に反對すとも、全能の神と彼の貧しき人々のために死んだ貧しき人であるイエス・クリストとは諸君に自由を持ち來すであらう」から、「諸君が自由を叫ぶとき、それは放縱を意味しては」ならないとなし、終りに「德なくんば眞の自由なく、宗敎なくんば眞の科學なく、又、神に對する恐れと隣人への愛なくんば眞の產業はあり得ないであらう。英國の勞働者よ、賢明なれ、然らば諸君は必然に自由とならう。蓋し諸君は自由となるに適合してゐようから。」との結語が讀まれた。

これぞ英蘭敎會創始以來曾て見ざりし宣言であると共に、また實にその背信、階級偏見、政治的阿諛に充てる半世紀の敎會史に對する贖罪的行爲の公にされたものゝ最初てあつた。この見地よりするとき、その內容の如何は暫く別問題として、文書に現はれたる妄濫に近き用語をもつても、尙且劃期的事象となすことが出來るであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

次いで四月十二日には、モウリス、キングスレー、ラッドロウ、マンスフィールド等は、モウリスの義兄弟アーチディーコン。ヘーア Archdeacon Hare 及び一知友エー。ジエー●スコット Alexexander J. Scott と共に協議會を開き、大體ラッドロウの提案に基づいて、定期刊行物を創刊することにきめた。併しモウリス自身は、ヂァーナリズムの匿名と無責任とに對する嫌惡から、之に異議を唱へ、筆者責任の歸屬するところを明かにして、その意見に强ひて他を同ぜしめるやうの恐れなき小冊子叢書を、寧ろ選ぶべしとなした。また、他の人々の意見は中產及び勞働階級のための新聞と、特に僧職及び限られたクリスト敎信者のための小册子と、二つの計畫ともに、よからうといふのであつたが、愈々具體的の協議に移り、著作者や經費の細目が問題となるに及び、後半の計畫は當分見合はせてその全力を定期刊行物に集中するやう相談が纏つた。モウリスとラッドロウの二人が求められて共同の編輯人たることを承諾した。

翌十三日朝、キングスレーは、仕事と昂奮とで、すつかり疲勞し切つてエヴアースレーに歸つた。この田舍牧師にとつて、今回の首都訪問は、限りなく効果的であつた。彼れはクリスト敎社會主義者（と後來呼ばれるやうになつた）同志の結社に加はり、その事業計畫の協議と進展とに與つたばかりでなく、また彼れ自身、同志達最初の宣言を草してその代表者たる役割を務めたのである。他の同志達は機關紙の創刊にとりかゝつた。題號は『民本政治』とすることにきまつた。これが

出版者を得るには、左程、困難を感じなかつたけれど、適當な寄稿者は容易に見當らなかつた。それでも創刊豫定日である五月六日には、無事にその第一號を刷ることが出來た。それには、六篇の論文、詩一篇と講演の報告一つとが載せられた。巻頭に掲げられた趣意書中に創刊の目的が明記されてあるが、之は引用に値する大文字である。『從來、政治のことはクリスト教から分離されてゐた。宗教家はその唯一の仕事を來世に限るものと想像し、政治家も亦現實の世界は來世とは全然異なつた原理に基づいて支配されてゐると言明して憚らない。政治なるものがホキッグ黨トーリー黨乃至急進黨間の軋轢として考へられてゐる限りは、又、クリスト教が自己中心的報酬を得る一手段として取扱はれてゐる限りは、兩者は決して統合されることはなからう。然しながら、人民のための政治は宗教から分離されてはならない。……世界は神によつて支配されてゐる。この事實は、富者には警告であり、貧者には慰籍である。總べての問題を考慮するに當つて、それが如何に難解に見えようとも、眞の希望となるものは、この事實に外ならない。……』かくてこの見地から『現下わが國民最大の關心事、例へば、選擧權の擴張、資本家の勞働者に對する關係、失業問題救濟問題についての政府の措置等を考察せんとするのである。』

モウリスはその『友愛』と題する論文の中に、機關紙として前記の目的に添はんがための方法について、かう言つてゐる『吾等同人は劃一を期してはゐない、意見を戰はし合つて行きたいと思つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

てゐるのだ。』と。實際、彼等の主眼としてゐたところは、細目に亘つた叙述としては明確な改革案といふよりも、寧ろ欝憤の放散、種々の問題についての論議、個人々々の見解の發表乃至一般原則の提唱の方にあつた。從つて『民本政治』からは統一された主張はきかれなく、その內容の如きも敎育、時評乃至文藝の各方面に亘り、一事に專らなるを得なかつたので、深く讀者に感銘を與へるといふわけにいかなかつたのは當然であらう。同人について見ても、ラッドロウを外にしては、社會改造の計畫によく通曉せる者なく、勞働者及びその要求について何等か知るところある者は一部の牧師や醫師に限られてをり、彼等とても勞働者の指導的人物とは全然沒交渉であつたから、勞働者側から疑惑の眼を以て迎へられたのも是非なかつた。されば『民本政治』の價値は主として同情心の熱烈なる具現たるところにあつたといへよう。現存の社會的不正義を痛感せる者及びその犧牲となつて永く悩まされてゐた者は、之に依つて彼等の小團に接近して來た。モウリスは、言はず語らずの間に、かうした人達の首領に推されてゐたので、漸次、その內氣な性格を裏切つて、運動の陣頭に立たねばならぬ地位に導かれていつた。かくて、この機關紙の創刊は徒爾ではなかつた。

現代から見れば、『民本政治』全紙に亘つて鼓吹されてゐる思想は高遠なる理想主義であつて、そこに何等革命的と呼ばるべきものを見出しがたく、最も進歩的であつたラッドロウにしても、評論の筆をやるには、極めて細心綿密であり又殆んどアカデミックであつた。然るに知友親戚達から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は彼等の行動につき反對が出て、之れを以て、彼等が生涯の破滅を招ぐと戒め、彼等の民衆に對する同情は諒とするも、之れを發現するために彼等が選んだ時と方法とに與することは出來ないとなしたｏ更に堪へがたかつたのは、批評家と一般民衆とが冷罵もしくは無關心をもつて彼等を迎へたことであるｏ仲間の國敎々徒さへ言葉たくみのあしらへをなすに過ぎなかつたｏ而も、何事にもまして心を痛ましめたものは、彼等が、その爲めに世を擧げての非難攻擊すら甘受してゐる勞働者そのものが、彼等の行動に疑惑の眼を向けたことでなければならないｏ

かうした四面楚歌の間に立つて、運動の創始者達はどんな態度をとつたか？

ラッドロウは、當時、二十七歲の青年であり未だ婚らずして母と共に暮してゐたｏ彼れは辯護士の職にあつたが、運動のためには常に之れを抛つだけの決心はしてゐたｏ彼れ自身のことよりは同志の福祉について憂ふるところの多かつた彼れは、周圍のものゝ反對や世間の惡評など更に意に介せず、敢然として陣頭に立つて善戰し續けたｏ彼は『勇敢なる魂』の異名をとつたｏ

自己の不德を責めるのに飽くまで嚴しく、一切の責任を脊負つて立つて心を勞することを惜しまないものはモウリスであつたｏ彼れは如何なる逆境に處しても又順境にあつても神の救濟を疑はなかつたｏ困苦も幸福も與へられるまゝに受取り、そこに力を養ふことが、クリスト信者たるものゝ行ずべきところだといふのが篤信な彼れの信條であつたｏ彼れは彼れの迫害者を理解し、よくその

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

立場に同情することさへ出來た。堪へがたき非難に對しても當然彼れの受くべきところとなし、同志の結束と運動の發展とに、彼れの忍受の德が如何に役立つたかは、計り知れないほどであつた。

しかし、キングスレーにいたつては、動もすれば血氣にはやり易く、從つて協力者の援助を受け、一方の闘將として熱辯を振ひ狂奔する時、輝かしい功績を擧げ得るのであるが、獨り勝算もない戰陣を守つて久しきに堪へるといふことは、そのよくするところでなかつた。嚴格の意味に於いては、彼れはこの運動の創始者でもなく指導者でもなかつたのであるが、この運動に最初の對社會的發現の原動力を供給したものは實に彼れであり、又久しきに亘つてその主たる代辯者として活動を續けたのも彼れであつた。

かくの如く此等の人々は各々異なつた性格の所有者であつたが、よく力を協せ長所を認めあつて運動を守り立てゝ行つた。漸次、同志になるものも增えたが、それは主として彼等の交友關係によつてゞあつた。エフ•ジエー•フアーニヴアル、F. J. Furnivall エー•エム•キヤンプベル、A. M. Campbell シー•アール•ワルシ、C. R. Walsh シー•イー•エリソン、C. E. Ellison エフ•シー•ペンローズ、F. C. Penrose 等がその中の主なるものであつた。新同志を得るに斡旋大いに努めたのはラッドロウとマンスフキールドであつた。

『民本政治』の發行は、前記の人々以外にも、少からぬ外護者をつくることが出來、その勢力

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の及ぶところ反つて同志達より大なるものがあつた。

機關誌の刊行は不幸にして程なく中止されることになつたが、之れに依つて折角喚起された情熱をそのまゝ放散するに委しておくことは、言ふまでもなく、避けねばならず、直ちに新計畫がラッドロウによつて目論まれた。これ彼れが年來の願とせるところであつて、細民窟改善のこと即ちこれである。新計畫は牧師ヰリアム・シヨート William Short の助言を得て具體化の緒を見出した。即ち教會も警察もまだ手をつけたことのないリットル・オーモンド・ヤードの住民に對する善隣事業を行ふことに相談が纏り、やがて夜學校が開設された。さゝやかな一軒の家が教室として手にいれられ、一八四八年九月二十一日、ラッドロウ、キャンプベル、ペンローズ、ファーニヴァル、パーカー等が臨席して開校式を擧行した。教授が始められて暫くの間、この細民地區への出入は實際危險であつたので、教師は二人づゝして行くのが常であつた。かうして、此の仕事は最初のうち、その基礎に動搖を來すやうな事件が屢あつたが、一度立脚地を得てからは、メキ〳〵効果を擧げることが出來た。

この夜學校經營は教師にも生徒にも等しく教育的であつたといへる。とりわけ、教師の多くは貧民及びその要求について間接的智識を有するに過ぎなかつたのであるが、こゝで彼等は之れを親しく體驗することが出來、彼等の最後にして又ある意味に於ける最も永遠的な事業ともいふべき勞働

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

者大學の基礎は、かくてこゝに築かれることになつた。夜學校では、初め暫くの間、男性の成人教育のみであつたが、幼童の就學を熱望する者が多くなつたので、この方の設備もしなければならなくなつた。やがて、亦、婦人達が同樣な要求を示して來た。彼等は之れに對しても何とかしてやらなければならず、苦心の末、一人の女教師の參加を得て、女性のために一學級を組織し、又、男生徒の家族を見回つて貰ふことにした。

彼等は引き續き種々の改善事業に努めたが、中でも、郊外清遊の企ては特筆に値しよう。一八四九年六月二十七日、彼等は男女幼童を含んだ地區民を馬車に搭載して遠くエッピング森林へ一日の清遊を試みたのである。

丁度この時分、彼等同志は、一人の最も有力な此の事業に比類なく適合した仲間を許らずも見出すことが出來た。トーマス・ヒユース Thomas Hughes こそはその人であつた。かうした團體には、よくあり勝ちな例で、自說を固持して讓らない者や、個性の著しく現れてゐる者が多いために、一所に仕事を始める場合など、とかく、團員の間に意見の相違を來すものであるが、ヒユースは不思議にこれらを調停する妙力を授かつてをり、この運動に參加するや間もなく或る意味に於けるその中心人物として取扱はれるやうになつた。

さはいへ、彼等の交誼の眞の中心及びその力の源泉をなしたものは、同志等の性格といふよりは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

寧ろその事業の精神的基礎であつたとする方が適當であらう。

モツリス宅での毎週月曜日夜八時から開かれる聖書講讀會は十二月（一八四九年）から始められた。これこそ彼等にとつて本統の意味の聖餐であり、その有効な團結の象徴であり、又依つて以つて彼等が靈感を悟得したところであつた。かくの如き方法は、社會的事業の準備として、非實際的であり餘りに現實の事象を離れすぎてゐると考へる人々も少くないであらうが、また、何人もマンスフイールドによつて書かれた記錄を讀んで、彼等同志の者が、斯く相集つて古聖の書の攻究とその眞の意義の領解と闡明との努力に費された時間こそ、彼等の生涯中、最も有用にして生きがひがあつたと、臆する色なく告白してゐる事實を否認することは出來まい。

實にかうして彼等は他の如何なる方法によつても得られない相互の信賴と親和とを養ひ成し、宗敎こそは眞人の生活と事業との無くて叶はぬ要素を形つくるものである理を悟ることが出來た。次の數年間、騷擾たえまなき主義宣傳の運動に於いて、艱難には雄々しく直面して立ち、よく誠實と同情とをもつて同志の結束を堅め得たものは、由つて來る所ないではなかつたのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹告

一、本誌の殘本第三號以下全部多少づゝありますから御希望の方は御申越し下さい。

一、讀者諸兄姉が御住所變更の際は、新舊とも御連記の上、一寸御通知願ひます。

一、集金郵便は郵便局に極く遠い方の外は、他に餘儀ない事情のない限り、成る可く御避け願ひ度う御在います。しかし集金郵便御希望の方には規則改正の爲一ヶ年分の誌代を戴かして貰ひますから豫め御承諾を願ひます。

一、御送金は成る可く振替を御使ひ下さいませ。又普通爲替の場合は書留にして戴き度う御座います。

一、御前納下さつた誌代が切れた時には封皮に其旨記載し其後も二三ヶ月間は御送りいたして居りますが、猶御送金の無い場合には、整理上甚だ勝手がましくありますが一ヶ年分の集金郵便を差上げる事にいたしてをりますからこれ亦豫め御許しを乞うて置きます。

一、御住所不明で戻つてまゐります雜誌は再送せず、そのまゝにしてありますから月々御受取なさらぬ方は御一報下さい。

一、購讀御中止の方は恐れ入りますが、必らず御一報下さい。

一、本誌は現在四千部刷つて居ます、基礎を堅める爲に、許されるなら、あと千名の讀者諸兄姉を惠まれたいのです。若し本誌のやうなものでも幾分御役に立つと思召しの方はどうぞ御知合に御紹介下さるやうお願ひ申します。

一、御不便な地方の方には、書籍其他購入の便宜をおはかり致しますから御遠慮なく御申越し下さい。

一、全國各地に於ける『光の友』の機關誌として、本誌を御使ひ願はうと存じますので、どうぞ御動靜を左記に御通知煩はし度う御座います。（東京市本所區小泉町二十四『子供の家』内松下吉衛宛）

京都市衣ノ棚丸太町上ル

本誌發賣所　宣光社

振替大阪五九八三九番